

商店街活性化へ連携＊管内商議所・商工会が会議＊洞爺湖温泉

2011/10/07 (金) 北海道新聞朝刊地方(室蘭・胆振) 切抜 31ページ 423文字

【洞爺湖】胆振管内全11市町の商工会議所会頭と商工会会長が集まった連携推進会議が6日、洞爺湖温泉のホテルで開かれた。中心商店街の衰退など、各地の課題解決にはオール胆振での連携が必要と、胆振総合振興局が初主催。専門家の講演や意見交換を行った。

初めに北大大学院経済学研究科の**高井哲彦**准教授が講演。「今は大型店が撤退し、マチ全体が荒廃する時代」と指摘し、「市町の枠を超えて会議所と商工会が活動する意義は大きい」と強調した。

意見交換会では「商店街の周辺に人が住むにはマンション建設が有効」「賭け事以外にショーも楽しいカジノ開設を目指す」などのほか「指定管理業務などを行って独自に収益を上げることも重要」との指摘も出た。

同振興局の石橋秀規局長は「中心商店街空洞化や観光客数減などの課題に、結束して対応するきっかけの場にしてほしい」と期待を寄せた。(福元久幸)

【写真説明】胆振管内全11市町の商工会議所会頭と商工会会長が初めて一堂に会した連携推進会議

COPYRIGHT © The Hokkaido Shimbun Press.

本サービスに関する知的所有権その他一切の権利は、北海道新聞社またはその情報提供者に帰属します。また本サービスは方法の如何、有償無償を問わず契約者以外の第三者に利用させることはできません。